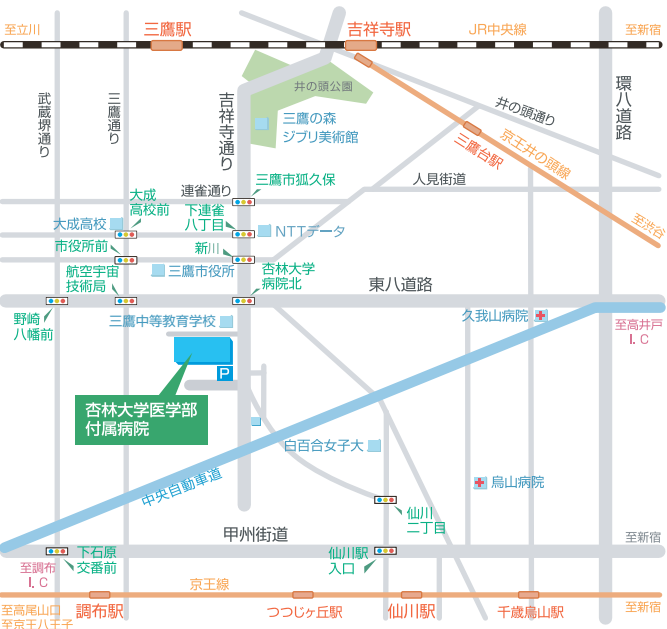
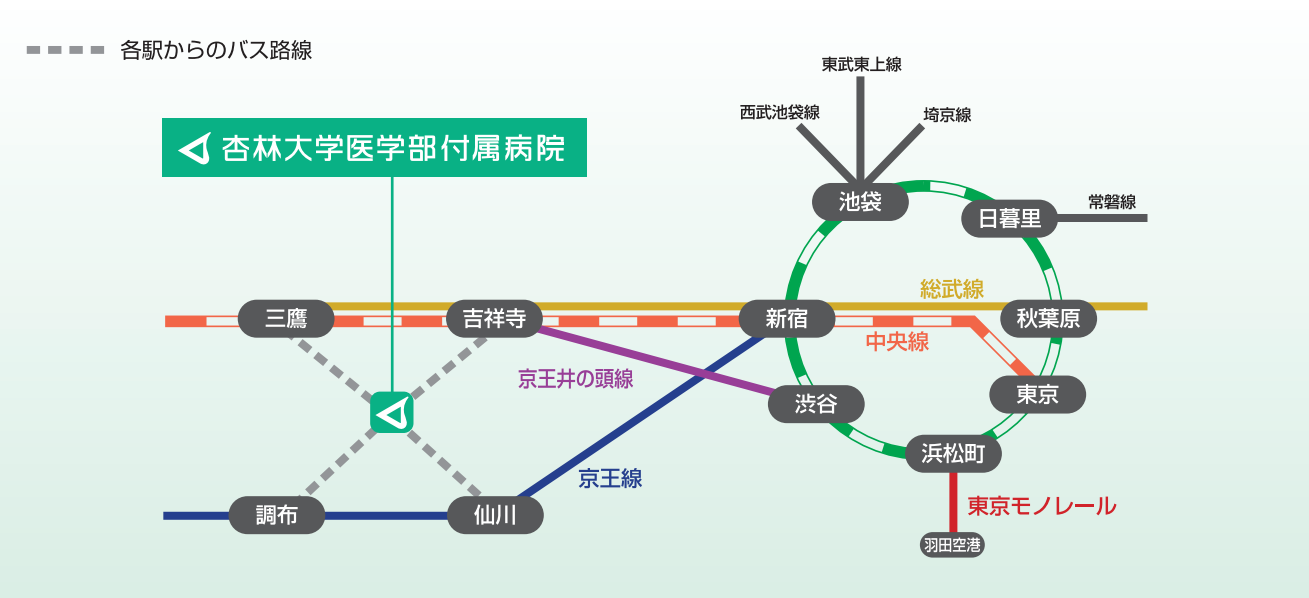


アクセス



- JR中央線 三鷹駅南口＜約20分＞
 - のりば7 仙川行、晃華学園東行、新川団地中央行→「杏林大学病院前」バス停下車
 - のりば8 野ヶ谷行→「杏林大学病院入口」バス停下車
- JR中央線・京王井の頭線 吉祥寺駅南口＜約20分＞
 - のりば6 野ヶ谷行、深大寺行→「杏林大学病院入口」バス停下車
 - のりば6 調布駅北口行（杏林経由）→「杏林大学病院前」バス停下車
 - のりば7 仙川行、新川団地行、杏林大学病院前行→「杏林大学病院前」バス停下車
- 京王線 仙川駅＜約15分＞
 - のりば1 吉祥寺駅中央口行、三鷹駅行→「杏林大学病院前」バス停下車
 - ※バス停は商店街を抜け、甲州街道を渡ったところにあります。
- 京王線 調布駅北口＜約24分＞
 - のりば13 吉祥寺行（杏林経由）→「杏林大学病院前」バス停下車
 - のりば14 杏林大学病院行→「杏林大学病院」バス停下車

臨床研修のご案内は下記へお問い合わせ下さい。

TEL:0422-47-5511 (代) kenshui@ks.kyorin-u.ac.jp

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学医学部付属病院 総合研修センター

杏林大学医学部付属病院
臨床研修(初期・専門)のご案内 2017

KYORIN UNIVERSITY HOSPITAL
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/>

杏林大学の建学の精神

眞・善・美の探究

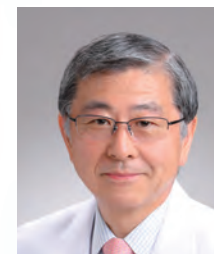
杏林大学医学部付属病院 診療センター・診療科

高度救命救急センター	腎臓・リウマチ膠原病内科	泌尿器科
臓器・組織移植センター	神経内科	眼科
熱傷センター	感染症科	耳鼻咽喉科
総合周産期母子医療センター	高齢診療科	産婦人科
腎・透析センター	精神神経科	放射線科
がんセンター	小児科	麻酔科
脳卒中センター	消化器・一般外科	救急科
造血細胞治療センター	呼吸器・甲状腺外科	腫瘍科
人間ドック	乳腺外科	リハビリテーション科
	小児外科	救急総合診療科
呼吸器内科	脳神経外科	
循環器内科	心臓血管外科	病理診断科
消化器内科	整形外科	臨床検査部
糖尿病・内分泌・代謝内科	皮膚科	
血液内科	形成外科・美容外科	

許可病床数	1,153床	外来患者数	2,098人 (1日平均)
入院患者数	808人 (1日平均)	救急 外来患者数	101人 (1日平均) (平成28年現在)

ご挨拶

共に良い医療を作りませんか。



杏林大学医学部付属病院は東京都の多摩地区にある唯一の大学医学部付属病院の本院です。都市部への医師の集中が問題となっていますが、多摩地区は東京区部に比較し医療資源が少なく、逆に言いますと臨床研修を受ける者にとってはそれだけ経験できる症例が豊富であることを意味します。さらに専門医を持った指導医が多数

在籍し、最新の設備と最先端の医療機器を備えており、臨床研修には理想的な環境を提供しています。現在、杏林大学出身者だけでなく多くの他学出身者も研修を受けておりますが、家庭的な雰囲気のほか、同じ仲間として研修に励んでおります。杏林大学医学部のモットーは“良医を育てる”ですが、本院で研修を受け、卓越した臨床技能を身に着けた医師が数多く臨床の現場で活躍しております。医師になって初めの数年間の研修がその人の臨床能力を決定するといわれており、近い将来に直面する医師過剰時代を生き抜くため、是非、当院での初期研修を通して、患者さんに頼られる優秀な臨床医になっていただきたいと思います。

病院長 岩下 光利

初期研修も専門研修も杏林大学病院で



医学生、研修医の皆さん。杏林大学医学部付属病院は年間の入院患者数約22,000、救急外来受診患者数約38,000、手術件数約11,000を越す大変アクティブな病院です。特定機能病院として高度な専門医療の担い手でもありますが、地域の中核病院としていわゆるcommon diseaseの患者さんを数多く診ることができますので、卒後1・2年

目の初期臨床研修にもその後の専門研修にも適した病院です。各科の指導医・上級医は、多くが「研修指導医のための講習会」を受講済で、適切な臨床経験の提供とフィードバックによる指導法を習得していますので、安全にかつ確実に臨床能力を伸ばすことができます。研修医室、研修医講義室、クリニカル・シミュレーション・ラボラトリー、「UoToDate」、 「Dynamed」をはじめ様々なデータベースや電子版医学雑誌へのアクセスが可能な電子図書館など、設備面でも充実しています。また、子育て中の医師のキャリア形成を支援する制度もできており、それぞれの状況に応じた働き方を選択できます。随時見学を受け付けておりますので、遠慮なく係に御連絡下さい。連絡先は裏表紙に記載されています。

卒後教育委員会 委員長 赤木 美智男

CONTENTS

・ご挨拶	02
・病院概要	02
・初期臨床研修	03
・研修環境	05
・病院・キャンパスと周辺のご案内	07
・専門研修	09
・アクセス	裏表紙

熱心な指導により、医師としての基本的な能力(知・技・心)の修得を支援します

初期臨床研修の理念と目標

杏林大学医学部付属病院の初期臨床研修は、将来選択する専門領域にかかわらず、その土台となる以下の基本的臨床能力の修得を目標とします。

- 1 医師にふさわしい責任感・倫理観を身につける。
- 2 患者の立場・気持ちを深く理解し、思いやることができる。
- 3 頻度の高い疾患・病態に関する適切な知識を有し、それを個々の患者に応用できる。
- 4 患者の病状をよく把握し、適切な検査・治療を計画できる。
- 5 患者、家族に対して検査・治療の説明を適切に行い、同意を得ることができる。
- 6 医療スタッフとコミュニケーションをよく取り、よい人間関係を築く。
- 7 ルールを遵守し安全な医療を実践する。
- 8 適切な基本的診察・検査・治療技能を身につける。



この目標の達成のため、次のような研修を提供します。

- 1 将来進みたい領域に合わせて2種類のプログラムを用意しました。
- 2 一次から三次まで幅広い救急研修ができます。
- 3 2か月の麻酔科研修により、気管挿管などの手技、呼吸管理や体液管理などがマスターできます。
- 4 地域医師会・僻地の病院との連携により、有意義な地域医療研修が行えます。
- 5 症例数が豊富でハイレベルな専門診療科において高い診療能力を身につけることができます。
- 6 侵襲的な手技を安心して繰り返し練習できるクリニカル・シミュレーション・ラボを整備しました。
- 7 常勤医の約3分の2は、指導能力向上のための講習(指導医養成ワークショップ)を受講しています。受講者の割合は毎年増加しています。
- 8 看護部、検査部、事務部などの協力により、病院全体で研修医を育てる体制を構築しています。



杏林大学 医学部付属病院 一般コース

杏林大学 医学部付属病院 周産期 重点コース

初期臨床研修

平成21年の臨床研修制度見直しに際し、当院でも研修プログラムの見直しを行いました。見直しのコンセプトは次の3つです。

1. 厚生労働省の定める研修の理念および到達目標が変わっていない以上、当院の研修の理念と到達目標も、これを堅持する。
2. どの研修医も確実に到達目標を達成できるように必修科目を定める。
3. 前項の要求を満たしつつ、できるだけ柔軟性のあるプログラムとする。

これらのコンセプトから生まれたのが平成29年度までの「カスタマイズ型研修プログラム」ですが、平成30年度の研修からこれを変更に、名称も「杏林大学医学部付属病院一般コース」と改めました。各科のプログラムを詳細に見ただけはわかりませんが(総合研修センターホームページから参照できます)、全ての科が「職業倫理」や「医療安全」など、医師としての基本を学ぶことを研修目標に掲げていますし、その達成度がきちんと評価され個々の研修医にフィードバックされます。7か月の自由選択期間がありますので、将来の進路に適した部門を選んで研修することができます。

研修プログラム

制度の定める必修科目である「内科(6か月)」、「救急(3か月)」、「地域医療(1か月)」の他に、選択必修科目のすべて、すなわち「麻酔科(2か月)」、「産婦人科(1か月)」、「精神神経科(1か月)」、「小児科(1か月)」、「外科(1か月)」を必修としました。これで必修の経験目標を確実に達成することができます。さらに、平成30年度からは1年次に救急分野研修(救急総合診療科)を1か月追加しました。これで、2年間の間に一次・二次救急研修を2か月、三次救急研修を2か月行うことができ、「救急に強い医師」を育てます。自由選択期間は7か月あり、将来の進路を見据えた自分なりのプログラムを組むことができます。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	内 科						麻酔科		外科	救総	選 択	
2年次	救総	救命救急		産	精	小	地	選 択				

救総:救急総合診療科(一次・二次救急)、産:産婦人科、精:精神神経科、小:小児科、地:地域医療

1. ローテーションの順序は個々の研修医によって異なります。
2. 内科は呼吸器、腎臓・膠原病、神経(または脳卒中)、循環器、血液、消化器、内分泌・代謝、高齢の8領域から6領域を選択します。
3. 外科は消化器・一般外科、呼吸器・甲状腺外科、心臓血管外科から1科を選択します。



「周産期重点コース」も基本的なコンセプトは「一般コース」と同じですが、小児科あるいは産婦人科の研修期間を長くとり、この領域の研修が重点的に行えるようになっています。ただし、小児科または産婦人科以外に、将来の進路に役立つと思われる科を研修することも可能です。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	産	小	外科	麻酔科		救総	内 科					
2年次	救総	救命救急		精	地	選択	原則として小または産					

救総:救急総合診療科(一次・二次救急)、産:産婦人科、精:精神神経科、小:小児科、地:地域医療

1. ローテーションの順序は個々の研修医によって異なります。
2. 内科は呼吸器、腎臓・膠原病、神経(または脳卒中)、循環器、血液、消化器、内分泌・代謝、高齢の8領域から6領域を選択します。
3. 外科は消化器・一般外科、呼吸器・甲状腺外科、心臓血管外科から1科を選択します。



研修医の声



盧 昌聖さん

当院は都心に程近く緑豊かな多摩地区にあります。この地区の唯一の大学病院として、近隣施設と協調した地域医療の推進から高度先端医療の実践まで幅広い役割を担っています。当院の初期研修の特徴は、経験目標を確実に達成できるように満遍なく必修科目が設定されていることと、大学病院ならではの専門科研修が充実していることです。基本的な臨床能力を獲得できるだけでなく、個々のニーズに合った研修プログラムを実現できます。この恵まれた環境で様々な患者さんの診療に携わることで、初期研修医に必要な診療能力を身につけることができます。

このような当院の研修を求めて、毎年50名余りの研修医が入職しており、他大学出身者は例年3〜4割を占めています。しかし、ひと度入職してしまえば出身は関係なく、当院の研修医はみな、互いに切磋琢磨して研修に取り組んでいます。初期研修終了後も多くは当院で後期研修をするため、ほぼ全ての科に2年間をともに過ごした仲間がいることになります。これは大変心強く、診療科の壁を越えた横断的な医療を提供することに繋がることだと思います。その上、病院全体で教育体制の充実を志しており、指導医はみな優しく研修医を導いてくれる存在で、研修医向けの勉強会も定期的に開催されています。

清潔な研修医室や専用当直室などアメニティの充実も当院の魅力の一つですが、他にも数多くの魅力があります。是非一度当院へ見学にいらしてください。



野中 麻衣さん

杏林大学医学部付属病院は、多摩地区唯一の大学病院であり、東京西部の医療の中核を担っています。そのため当院では多くのcommon diseaseを診ることができ、総合的に診療をする基礎を築くことができます。もちろん各診療科で高い専門性を持つ指導医の先生方から直接熱い指導を受けることができますし、大切なcritical diseaseを経験する機会にも恵まれています。

私は、杏林であれば各診療科の専門的な知識を学びながらも、総合的に診療する力を身に付けられると思い、当院で研修することになりました。また、研修先としては、アットホームな雰囲気である

ことも、重要なポイントだと思います。杏林の初期研修では毎日指導医や上級医の先生方から、温かく、熱心な指導を受けています。杏林には知識・経験が豊富な先生方がたくさんいらっしゃり、私たちが判断や対応に困った際には、相談に応じてくださいます。その度に私たち研修医は学び、成長することができ、日々の研修生活が充実したものとなります。

また同期が50-60人程度と大人数であることも、魅力の1つです。全員が2年間同じ場所で研修するため、出身大学関係なく、励まし合い、交流の場を多く持つことができます。仕事場だけでなく、飲み会などでも些細なことでも相談をしたり、支え合える場面が多く、今後医師生活を送る上で大切な仲間を得ることができたと思います。温かい指導医の先生方や、長き同期とともに、ぜひ杏林で充実した研修生活を送りませんか。

指導医の声



倉井 大輔さん(呼吸器内科)

研修医には、病態・治療プロセスを「思考する能力」を養うことが求められます。また、「基本手技の習得」も必須になります。これらを身に着けるには「教育体制」と「環境」のバランスがとれた施設で研修する事が重要です。

当院は、救急疾患を含め様々な病態の患者の治療を行っており、研修に求められるモンディーズを初期診療から数多く経験できます。症例のエッセンスを効率よく吸収するには、経験豊富な指導医・上級医の下で学ぶことが近道です。当院には、この「教育体制」を支える

経験豊富な医師が多く存在します。

また、当院は出身大学に関係なく働きやすく、風通しのよい職場です。社会人になったばかりの研修医は、緊張する時間が連続します。当院には、年次別の研修医部屋があり、その中に研修医一人一人に自分の机が割り当てられ、ストレスの軽減ができる「環境」も整備されています。

当院は、今まで述べたように「教育体制」と「環境」の整った研修に適した病院です。研修中に何を学ぶかは、人それぞれですが、研修時間は簡単に過ぎ去ります。研修中は「教わり上手」を目指し、体を壊さず、有意義な時間を過ごして下さい。この文章を読んで研修医となった先生方と将来働ける日々を楽しみにしています。

一人一人の夢を実現するために、 万全の研修環境を提供します



手術室

医療施設

特定機能病院、東京西部地域の一次、二次、三次救急医療の基幹病院およびがん拠点病院としての使命を担っています。平成7年には、厚生労働大臣の認定する全国10ヶ所(当時)の高度救命救急センターの一つに認定され医療の質、その規模、内容ともに全国トップクラスの評価を受けています。



TCC(高度救命救急センター)



ICU



文献検索エリア



新着雑誌エリア

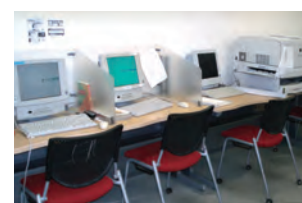


大閲覧室

図書館

医学図書館は、学園の教職員・学生のための施設です。約3,000m²の館内に約9万5千冊の図書があります。電子ジャーナルや文献データベースを中心としたオンラインサービスにも力を入れています。電子ジャーナル約2万3千タイトルのほか、臨床支援データベースのUpToDate、The Cochrane Libraryを導入して、診療・研究・教育活動をサポートしています。平日は8時30分から22時30分、土日祝日は9時から22時30分に開館しています。リモートアクセスサービスに登録すると、自宅から文献検索データベースや電子ジャーナルを利用することができます。個人ポータルサイト「MyLibrary」をお使いいただくと、オンラインで資料の予約、文献取り寄せの申込などができます。

研修医室・研修医講義室



大学院講堂

講演会、学会、式典などに幅広く利用されています。
席数:243席、車椅子席2台分

クリニカル・シミュレーション・ラボ

クリニカル・シミュレーション・ラボラトリー(略称CSL)では、医師、医学部・保健学部・医学部付属看護専門学校の学生や教員、看護師、コメディカルスタッフなどが随時トレーニングを行えるように、色々なシミュレーション器具を取り揃えています。



シミュレーション研修風景

シミュレーター

蘇生(成人、小児)、心音、肺音、気道管理、中心静脈穿刺、腰椎穿刺、静脈注射、導尿、皮膚縫合、鏡視下手術、超音波装置、除細動装置、眼底・耳の診察、乳癌触診、直腸診など

主な設備

- 総床面積 約114m²
- ホワイトボード 1台
- スクリーン 1台



職員寮

(平成29年6月現在)

病院から徒歩10分圏内に、マンション形式の独身者用職員寮があります。
(空き部屋がなく、入寮できない場合もあります。)

寮費/1か月

寮費50,000円・共益費3,000円・保険料136円

部屋の一例

占有面積約24m²/RC構造/3階建て/エアコン完備/バス・トイレ別/都市ガス/居間フローリング/室内洗濯機置き場有/CATV視聴可(武蔵野三鷹CTV)/駐輪場有/駐車場なし/オートロック

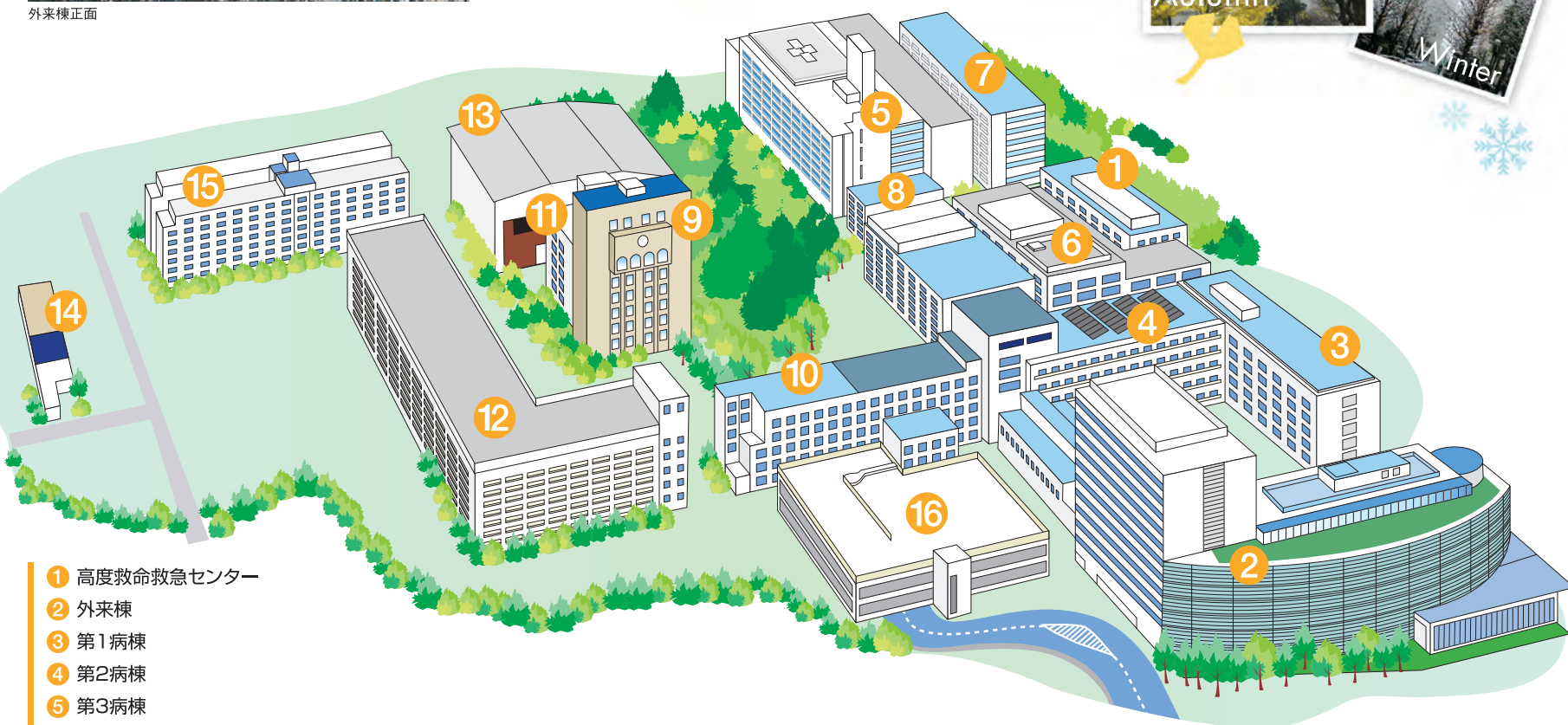
住みよい街、美しいキャンパスで 快適な研修生活を



外来棟正面

キャンパスの四季

武蔵野の面影を残した豊かな緑に囲まれたキャンパスでは、春には梅や杏や桜の花が、初夏には鮮やかな新緑が、そして秋には美しい紅葉が見られ、四季折々の景色が楽しめます。



- ① 高度救命救急センター
- ② 外来棟
- ③ 第1病棟
- ④ 第2病棟
- ⑤ 第3病棟
- ⑥ 中央病棟
- ⑦ 外科病棟
- ⑧ D棟（研修医棟）
- ⑨ 医学資料情報センター（本部棟）
- ⑩ 医学部講義棟
- ⑪ 医学図書館
- ⑫ 基礎医学研究棟・臨床医学研究棟
- ⑬ 松田記念館
- ⑭ 看護専門学校
- ⑮ 看護医学教育研究棟
- ⑯ 病院駐車場

院内アメニティ施設のご案内



院内には、カフェや24時間営業のコンビニエンスストアなどのアメニティ施設があります。

病院・キャンパス 周辺情報



杏林大学 井の頭キャンパス



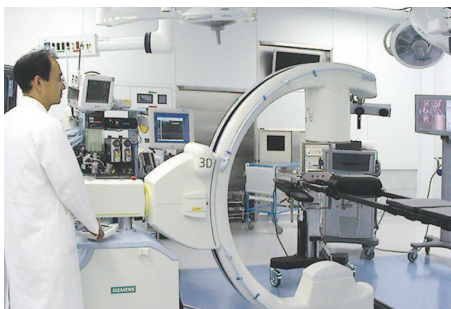
井の頭公園



三鷹の森ジブリ美術館 ©Museum of Art Ghibli

安定した身分と充実した研修プログラムにより、 さまざまな領域で活躍できる医師の育成を目指します

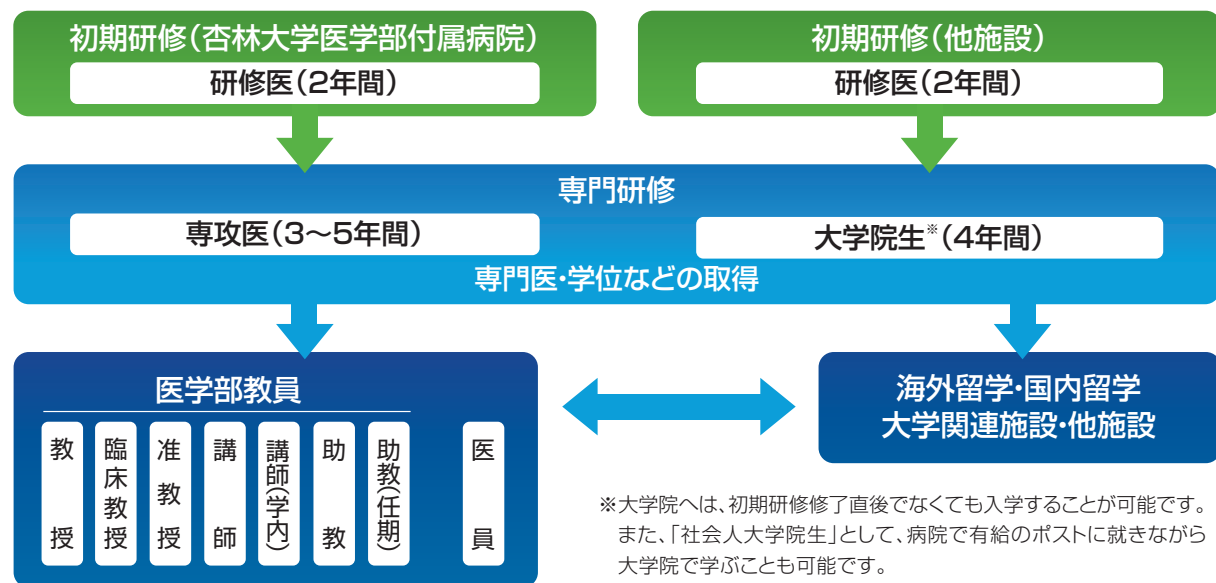
専門研修



個々のキャリア形成を親身になってサポートします。

杏林大学医学部付属病院では、すでに平成23年度からすべての科で「専門研修プログラム」を作成し、また専門研修中の身分を明確にして経済的な不安がないようにしました。また、妊娠・出産、子育て、あるいは介護などでフルタイムの仕事ができない状況でも仕事を継続できるように支援しています。平成30年度から導入される予定の新専門医制度における、19の基本専門領域すべての専門研修に適切に対応できるように、病院全体として準備を整えています。平成29年5月現在では従来の専門研修プログラムをホームページで公開していますが、新制度の動向がもう少し明らかになった時点で、新プログラムを公開致します。

■ 杏林大学医学部付属病院の卒後教育の概要



※大学院へは、初期研修修了直後でなくても入学することが可能です。
また、「社会人大学院生」として、病院で有給のポストに就きながら大学院で学ぶことも可能です。

杏林大学医学部付属病院の専門研修の理念と目的

大学内のみならず、医療界の様々な場面で活躍できる、次のような人材の育成をめざします。

- ① 高度の専門的な診療能力を持った医師
- ② 研究心、研究能力を持った医師
- ③ 後進を適切に指導する能力を持った医師

この目的を達成するために、安定した身分と処遇、各科の専門研修プログラムに基づいた適切な研修環境を提供します。

取得できる専門医・指導医資格

新専門医制度におけるサブスペシャリティの専門資格についてはまだほとんど明らかになっていませんが、現行制度において当院での専門研修により取得可能な資格を示します。

専門医
など

下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医 胸部大動脈瘤ステントグラフト実施医・指導医 外科周術期感染管理認定医 甲状腺外科専門医 呼吸器外科専門医 死体解剖資格 神経超音波検査士 心臓血管外科専門医 精神保健指定医 総合内科専門医 頭頸部癌専門医 内視鏡技術認定医 内分泌科専門医 日本アレルギー学会アレルギー専門医 日本医学放射線学会放射線科認定医・専門医 日本医学放射線学会放射線診断専門医・治療専門医 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医 日本化学療法学会抗腫瘍化学療法指導医 日本カプセル内視鏡学会認定医 日本眼科学会専門医 日本感染症学会感染症専門医 日本肝臓病学会肝臓専門医 日本肝胆脾外科学会高度技能専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・教育医 日本緩和医療学会認定医・専門医 日本気管食道学会気管食道科専門医 日本救急医学会専門医 日本区域麻酔学会認定医 日本形成外科学会専門医 日本外科学会外科専門医・指導医	日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医 日本血液学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本産科婦人科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本集中治療学会専門医 日本循環器学会専門医 日本消化管学会胃腸科専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本小児科学会専門医 日本小児外科学会専門医 日本小児麻酔専門医 日本食道学会食道科認定医 日本神経学会専門医 日本心臓血管麻酔専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本睡眠学会認定医 日本頭痛学会専門医 日本性機能学会専門医 日本整形外科学会整形外科専門医 日本精神神経学会精神科専門医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医 日本胆道学会認定指導医 日本超音波医学会超音波専門医 日本てんかん学会認定医(臨床専門医) 日本透視医学会専門医	日本糖尿病学会専門医・指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本内分泌学会専門医・指導医 日本乳癌学会乳腺認定医・専門医 日本認知症学会専門医 日本熱傷学会熱傷専門医 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医 日本泌尿器科学会専門医 日本泌尿器科学会泌尿器腔鏡技術認定医 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 日本病理学会病理専門医 日本ペインクリニック学会専門医 日本ペリカンクター学会認定医 日本麻酔科学会専門医・麻酔科標榜医 日本脈管学会認定脈管専門医 日本輸血・細胞治療学会認定医 日本リウマチ学会リウマチ専門医 日本リハビリテーション医学会専門医 日本臨床検査医学会臨床検査専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 日本臨床神経生理学会認定医 日本レーザー医学会レーザー専門医 日本老年医学会老年病専門医 日本老年精神医学会専門医 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施医・指導医 臨床遺伝専門医
---	--	--

他多数

※取得できることを保証するものではありません。

レジデントの声

森久保 美保さん(小児科)



平成28年3月に杏林大学医学部付属病院初期臨床プログラムを終了し、同年4月より後期臨床研修医として小児科へ入局しました。
 自身は杏林大学出身であり8年間当大学にて学んで参りましたが、初期研修医は都内大学病院の中では比較的他大学出身者も多く集まっており、互いに刺激し合いながら切磋琢磨しつつ研修できる環境と自負しております。そしてその多くが当院後期研修医として勤務しており、各科に相談できる頼れる同期が居るということも、大きな利点となります。
 私が入局した当院小児科の特徴として、気管支喘息・急性胃腸炎のようなありふれた疾患から、大学病院ならではの難病、また急性

期・慢性期にとらわれず、非常に多くの疾患を経験できる点が挙げられます。さらに、救急外来ではwalk inの患者さんの診療から、多摩地区においての急性期医療の中心とも言える高度救命救急センターを構えている事から、3次救急での小児患者さんの診療まで、対応は多岐に渡ります。大学病院としてのacademicな面も持ち合わせ、学会での発表だけでなく、週2回症例検討会もっており、最新の知見なども日常業務に並行して学ぶ機会が得られます。各専門別に様々な場面で活躍されている上級医の先生方からの指導も得られ、臨床現場を通して日々勉強させていただいています。
 私は、臨床実習・初期研修期間を経て、当院小児科の診療に触れることで徐々に進路として深く考えるようになりました。実際の診療の中で初めて発見できることも多いかと思います。是非、研修先として杏林大学病院を選択していただき、患者さんと向き合いながら、良医を目指して共に学んでいただければと思います。



津村 哲郎さん(糖尿病・内分泌・代謝内科)

2016年3月に杏林大学病院の初期研修を修了し、現在は糖尿病・内分泌・代謝内科に入局し糖尿病をはじめとした様々な内分泌疾患を持つ患者さんと向き合いながら勉強の日々を送っています。多摩地区唯一の大学病院である当院には多種多様な疾患をもつ患者さんが受診され、当院で得られる経験の幅広さは国内でも間違いなくトップクラスと確信しています。
 もう1つ当院の魅力は語る上で外せないのは、人のあたたかさです。入職当初、診療実践に消極的だった私を熱く叱って下さる先生や、自らの背中中でやるべきことを示してくださる先生とたくさん出会ってきましたが、ダメな奴は放っておく

うと目を背ける先生は記憶の限り1人もなく、そんな中で仕事をしているうちのいつの間にか責任をもって患者さんを診るんだという強い気持ちが芽生えました。先生が自らの向上心のみならず後輩に対する教育熱心さも兼ね備えているからこそその環境だと思っており、そんな中で学ばせていただき感謝が尽きません。
 当院は、大学病院として基礎・臨床ともに専門的な研究に力を入れている一方で、多摩地区有数の急性期病院として目の前の患者に最善の医療を、という考えも大切にしている面があります。また他大出身者への排他的な雰囲気は全くなく、和気藹々と診療を行っています。当院でなら、どのようなスタンスの人でも自らの道をとことん追求できると思います。
 皆さんも、我々と一緒に仕事をしませんか。

指導医の声

小嶋 幸一郎さん(消化器・一般外科)



当院は武蔵野地区唯一の大学病院であり、特定機能病院として高度先進医療を提供するのみならず、地域中核病院として救急医療にも力を入れており、大学病院でありながら、common diseasesからrare diseasesまで幅広く症例を経験できる、都内では数少ない大学病院であります。私の所属する消化器・一般外科でも、虫垂炎や消化管穿孔などの救急疾患に対する手術から、胃癌や肝癌などの高度の技能を要する手術まで、さらには胃癌や大腸癌に対する腹腔鏡手術なども行っており、専攻医(後期研修医)も幅広い症例を経験することが出来ます。
 また救急部門では、多彩な分野の専門医師によって構成さ

れる救急初期診療チームが専門科への振り分け(トリアージ)を行っており、救急総合診療科を中心として全診療科が協力しあって救急初期診療にあたっています。専攻医の皆さんにとっても、このような環境で救急医療の研修を行えるので、幅広くかつ専門的知識を効率よく身に付けることが出来ます。
 当院は分科がなく、医師の移動が少ないため、各診療科の連携も緊密であり、アットホームな雰囲気の中で研修ができるので、他大学出身者が先輩の口コミで当院での研修を選択されることが多いのも特徴と言えるでしょう。
 新しい専門医制度が始まろうとしています。総合診療専門医を含む19の基本領域すべてで専門研修プログラムが作成されており、皆さんを迎える準備が着々と進んでいます。
 一人でも多くの皆さんと、この武蔵野の地で、一緒に医療が出来ることを楽しみにしております。